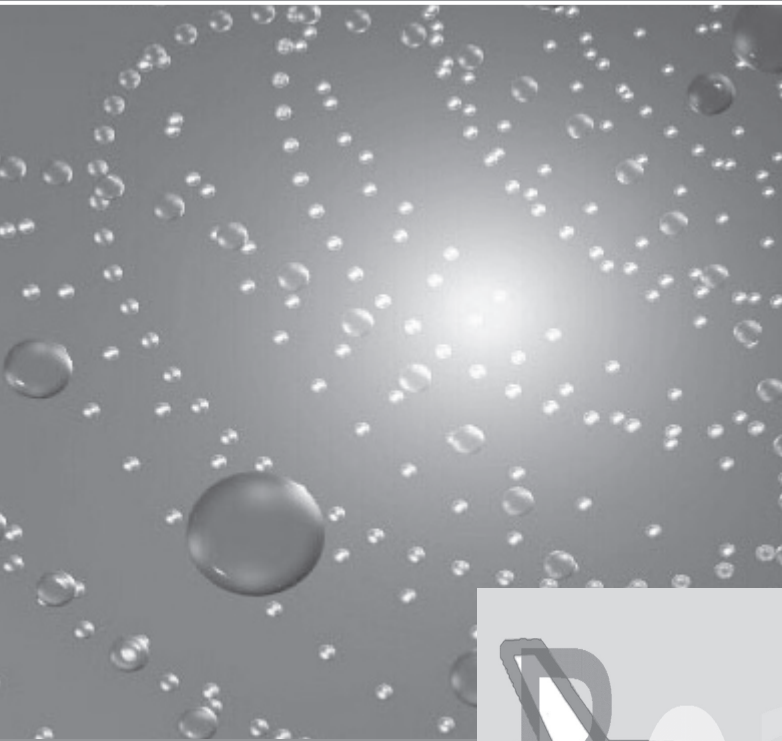


Boat Diving Speciality

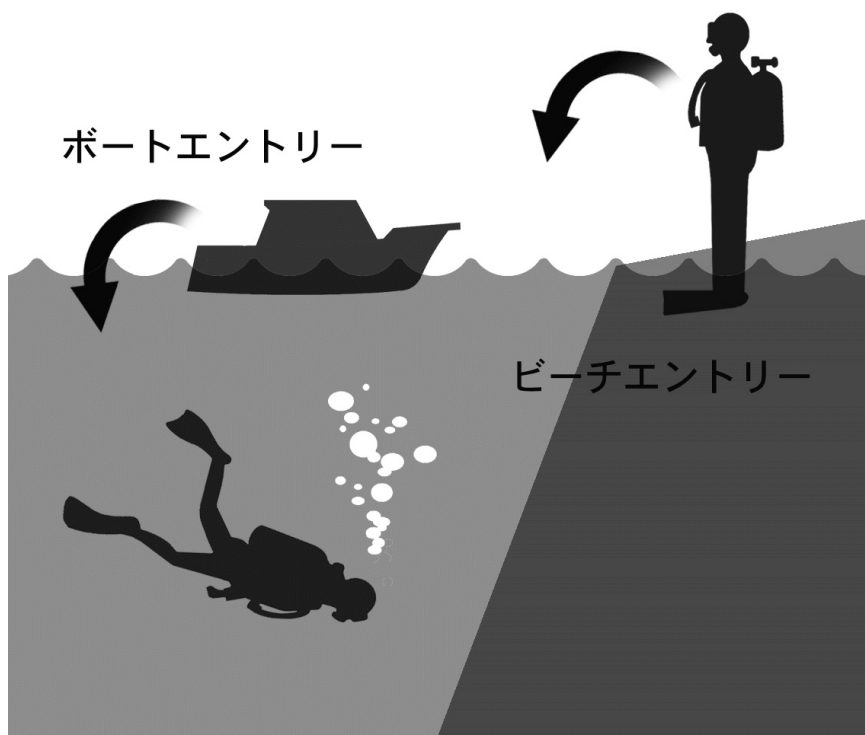


あなたも遊び人の仲間入り

ボートダイビングをマスターすると、ビーチエントリーでは経験できない、未知のダイビングポイントを楽しむことができます。

エントリーやエキジットの時に、海辺まで歩く必要がないことも大きなメリットです。

ボートダイビングをマスターして、一気に遊びのエリアを広げましょう。



認定カード

この講習を修了すると、ボートダイビングスペシャリティカードを取得することができます。

この認定カードは、あなたがボートダイビングに関する十分な知識や技術を持つことを証明することができます。

ダイビングにでかけるときには忘れずに持っていきましょう。

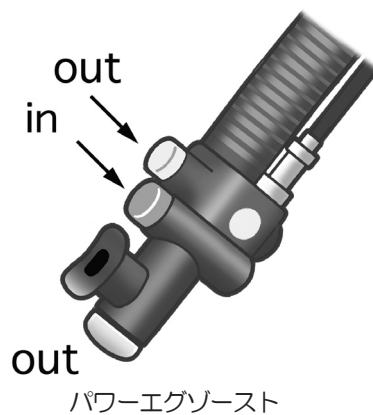


ボートダイビングスペシャリティ認定カード

器材

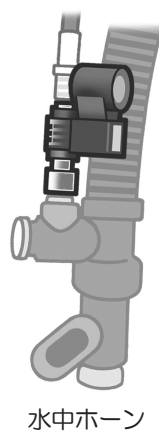
■ BC

ボートダイビングでは、通常よりも素早い潜降が必要な場合があるため、パワーエグゾーストの付いているBCか、インフレーターホースを引っ張ると空気が抜けるタイプのBCが必要です。



■ホーン

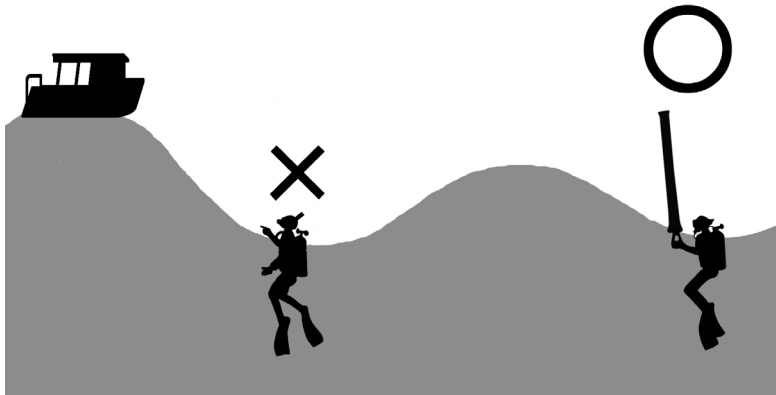
ボートやダイバーに音で合図をするために、BCにはホイッスルだけでなく、水中でも使えるホーンを装着しましょう。



■シグナルフロート

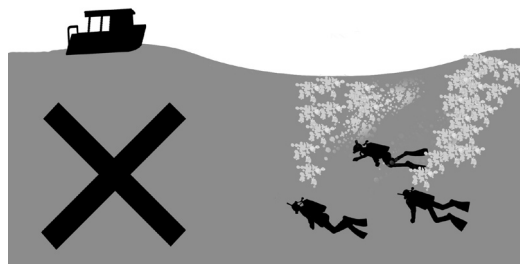
ボートとダイバーの距離が離れている場合や、波が大きい場合には、ボートからダイバーを発見することは困難です。

シグナルフローを使用して、ボートに合図しましょう。

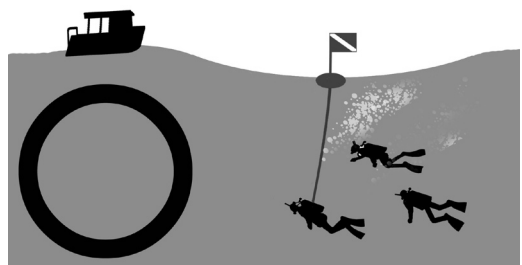


■水面フロート

ボートが水中のダイバーの位置を知るためには、ダイバーの排気した泡を見つける方法もありますが、泡は波浪により見えにくいことがあります。



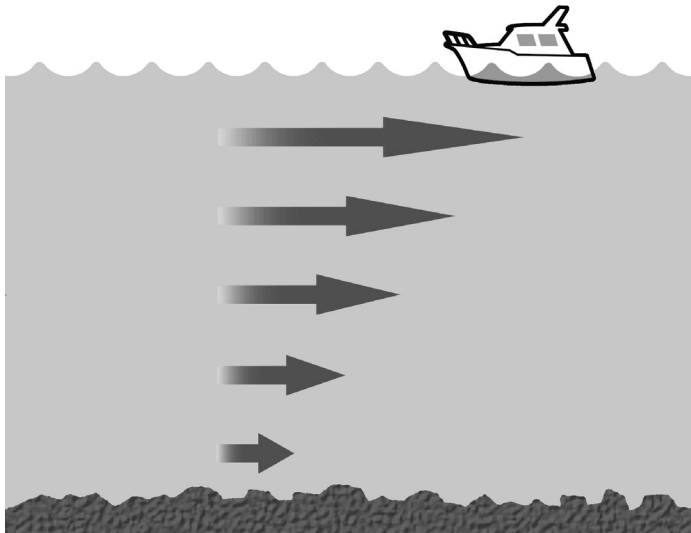
水面フロートはチームリーダーが準備し、水中のダイバーの位置をボートに知らせるために使用されます。



水面の潮流が非常に速い場合には、水面フロートを持つチームリーダーが他のダイバーより速く流されてしまうため、水面フロートを使用しないこともあります。

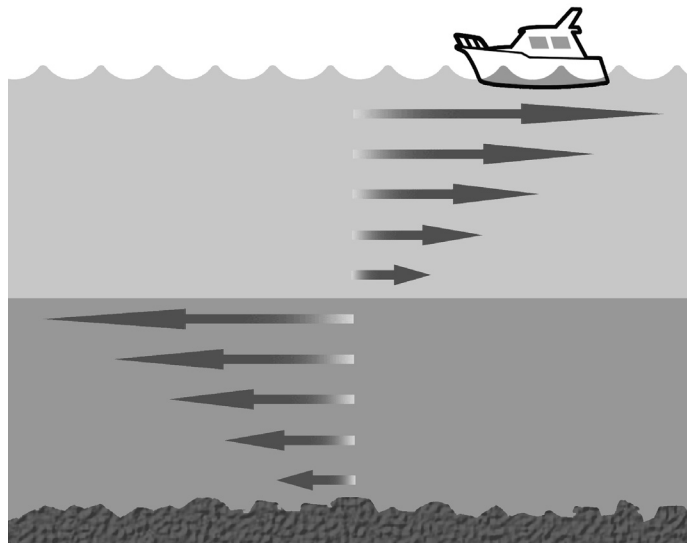
潮流

潮流は海面付近で速く、海底付近ではゆっくりとなります。



■二枚潮

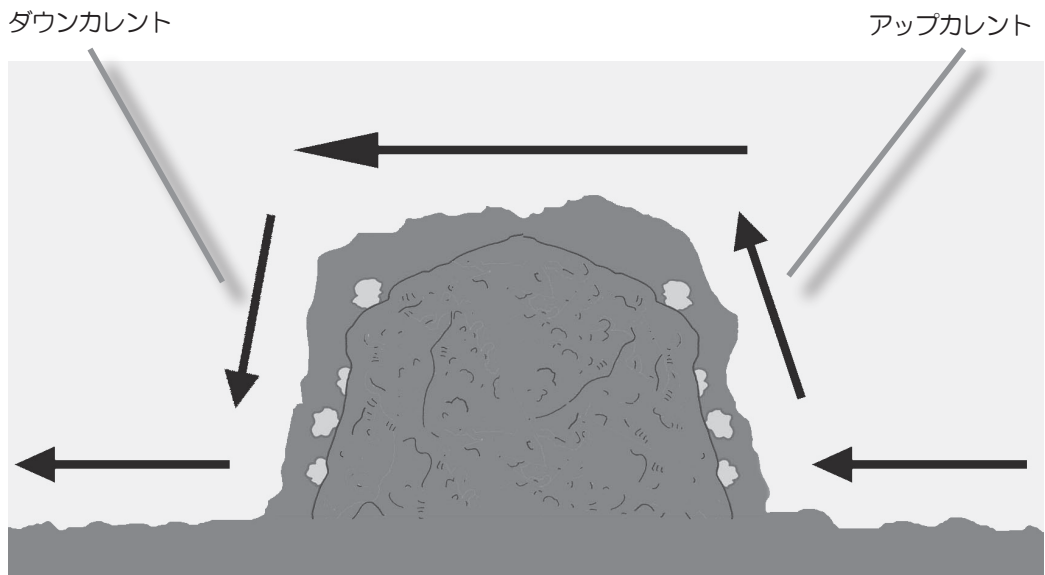
海面付近の潮流の方向と海底付近での潮流の方向が異なっている潮流です。チームリーダーの水深まですばやく潜降すれば、チームからはぐれることはありません。



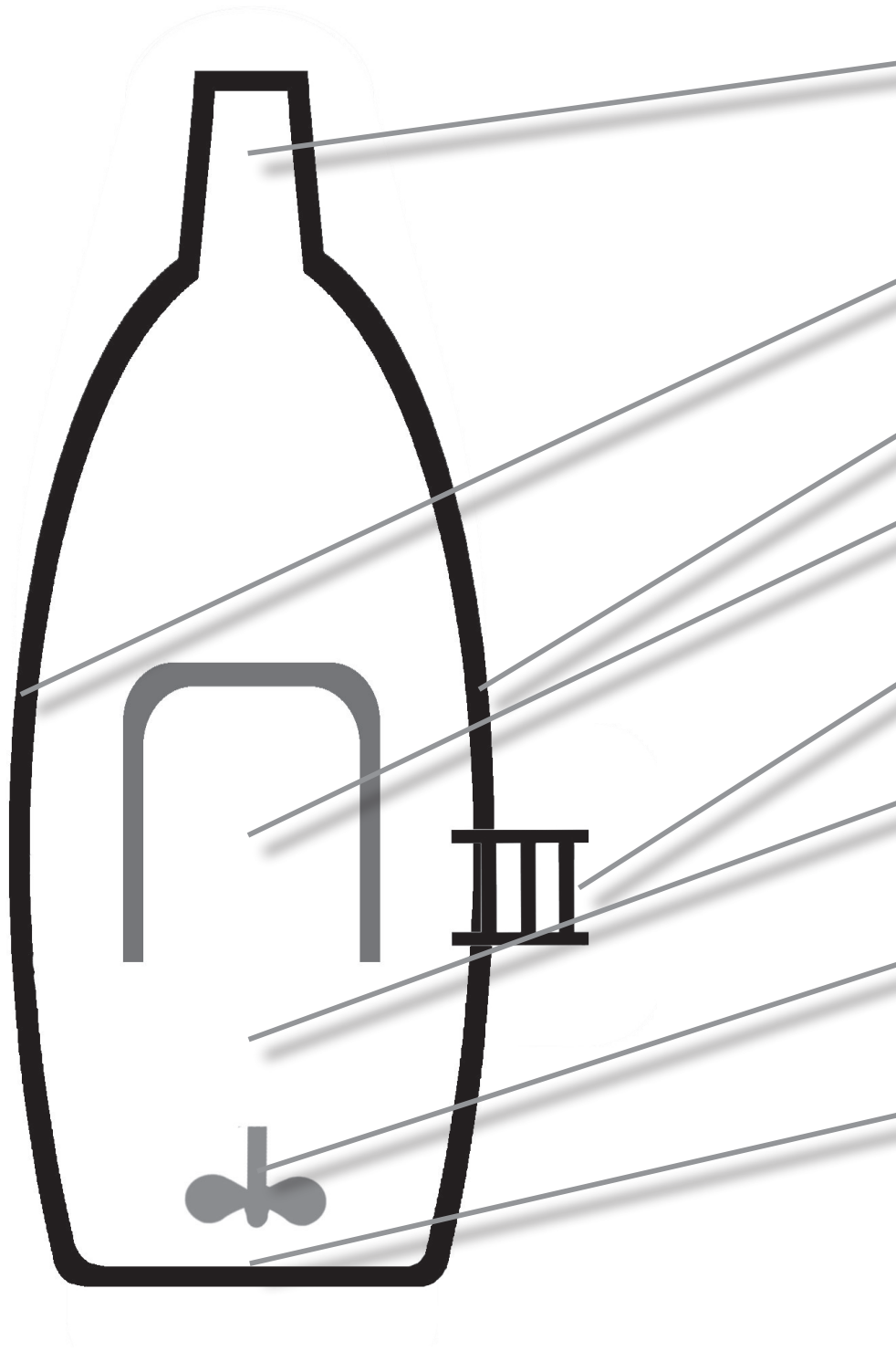
■その他の潮流

大きな根など海底の地形が大きく変化する場所でアップカレントとダウンカレントが発生します。

すばやく浮力調整をして対処する必要があります。



ボートの専門用語



ボートダイビング前のブリーフィングでは、専門用語が使われることがあります。スムーズなブリーフィングのためにボートの特別な用語を覚えておきましょう。

おもて（へさき）

ボートの前部のことです。
走行中に最も揺れが大きいところです。

左舷

おもてに向かってボートの左側のことです。

右舷

おもてに向かってボートの右側のことです。

キャビン

部屋のことです。大型のボートではシャワーや洗面所も完備しています。

ラダー

水面からボートに乗り込むためのハシゴです。
取り外しができるようになっているものもあります。

デッキ

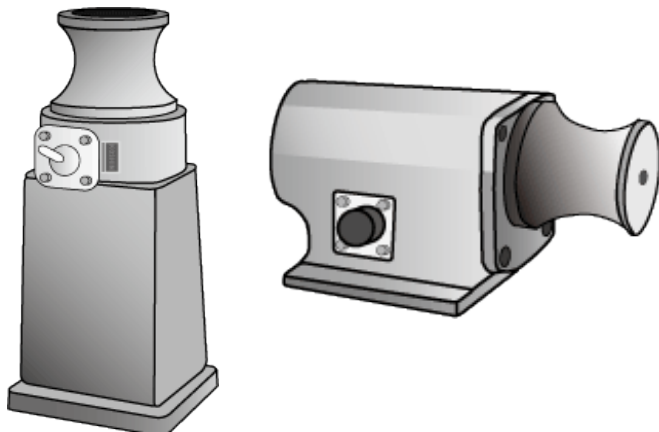
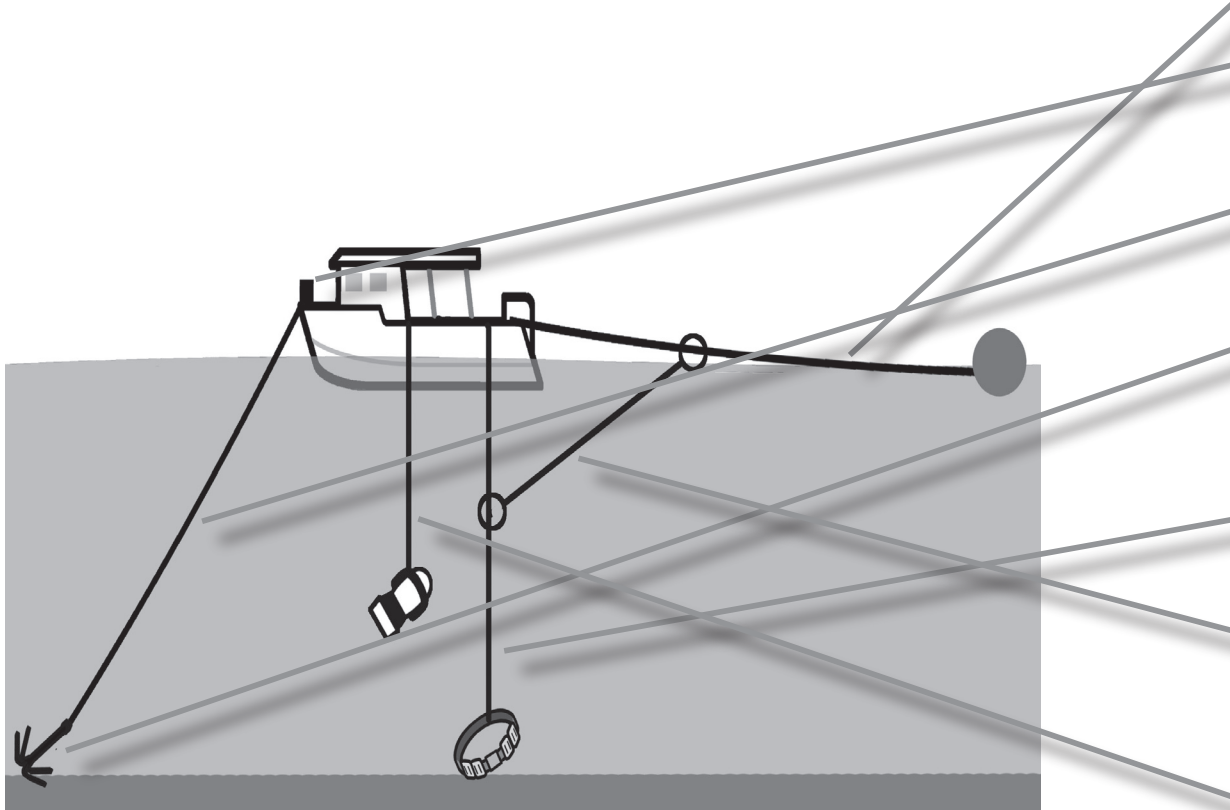
ボートの床の平坦な部分のことです。
水にぬれているとすべりやすいので、足元に注意して歩きましょう。

スクリュー（ペラ）

巻き込まれるリスクがあります。
絶対に近寄ってはいけません。

とも

ボートの後部のことです。
走行中に最も揺れが少ないところです。



カレントライン

これにつかまって、潜降の順番を待ちます。
潮流があっても泳がずにすみ、体力の消耗を防ぎます。

ボラード

おもてにある柱状の突起物です。アンカーラインを結んで固定します。

アンカーライン

アンカーとボートをつなぐためのロープです。

アンカー

錨のことです。海底の岩や砂地に食い込み、ボートを水面に固定します。

潜降ライン

これにつかまったり、目印にしながら潜降します。
先端にはおもりが吊下げられています。

タグライン

ボートから潜降ラインにのびているロープです。
エントリー後にこれを伝わって潜降ラインまで移動できます。

ギャライン

水中カメラなどをボートからダイバーに渡すためのロープです。

ウインドラス

アンカーラインを巻き取るための機械です。

ボートダイビングの特徴

ボートダイビングには、アンカーでボートを固定させた状態でダイビングを行う方法と、ボートを固定させずにダイビングを行う方法があります。



通常のボートダイビング

ボートを固定させずにダイビングを行う方法を、通常のボートダイビングと区別して、ドリフトダイビングといいます。



ドリフトダイビング

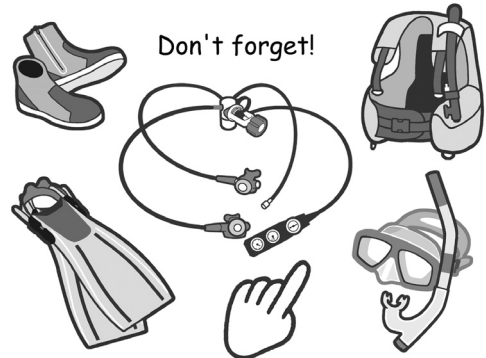
ボートの上は足下が狭くてだけでなく、波により足下が不安定になるので、ボートダイビングには特別な注意が必要です。

潮流が速い場所でダイビングをすることもあるので、ボートスタッフやインストラクターの注意事項をよく聞いて、自分勝手な行動はやめましょう。

通常のボートダイビング

■ボートの乗船・下船時の注意事項

乗船前や下船前に器材の忘れ物がないか確認しましょう。



乗船時と下船時にはボートスタッフの手を借りましょう。

不用意にボートをまたぐと、落水の危険があります。

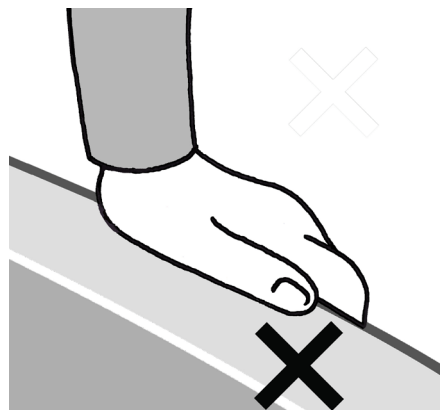


足下が不安定なボートには荷物を持たずに乗船・下船し、他のダイバーと協力して荷物を移動しましょう。

乗船したら、出向前に器材を整理整頓して自分の近くに置きましょう。

舷側に手を置かないようにしましょう。

ボートと岸壁との間に手をはさまれると大けがをします。



巻かれているロープやワイヤー（金属でできたロープ）に巻き込まれると大けがをします。

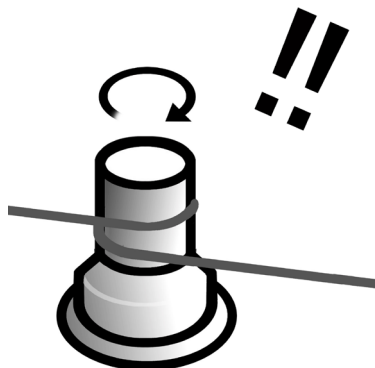
巻かれているロープやワイヤーの付近には近寄らないようにしましょう。



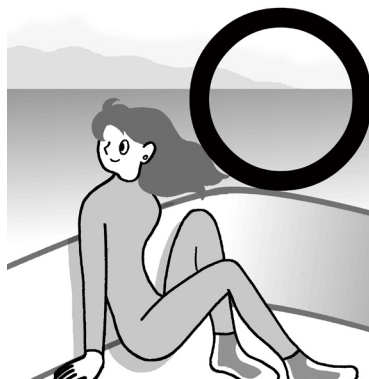
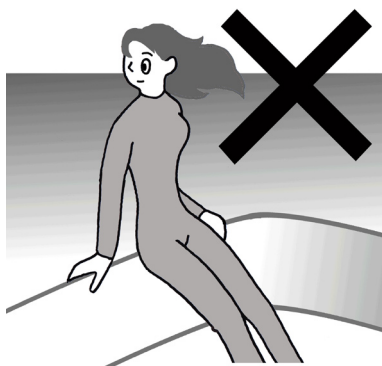
アンカーは重量があるだけではなく、先端が細くなっているものもあり注意が必要です。アンカーには近寄らないようにしましょう。



ウインドラスに巻き込まれると大けがをします。ウインドラスの付近には近寄らないようにしましょう。



小型ボート上は、波や風や潮流等により揺れるため不安定です。走行中は舷側に腰掛けたり立ち上がったりせず、デッキの上に座りましょう。



■ダイビング準備

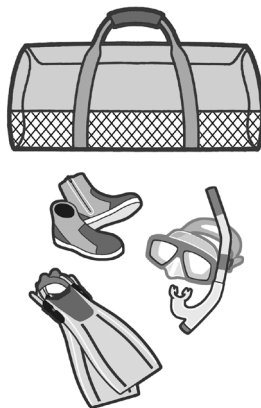
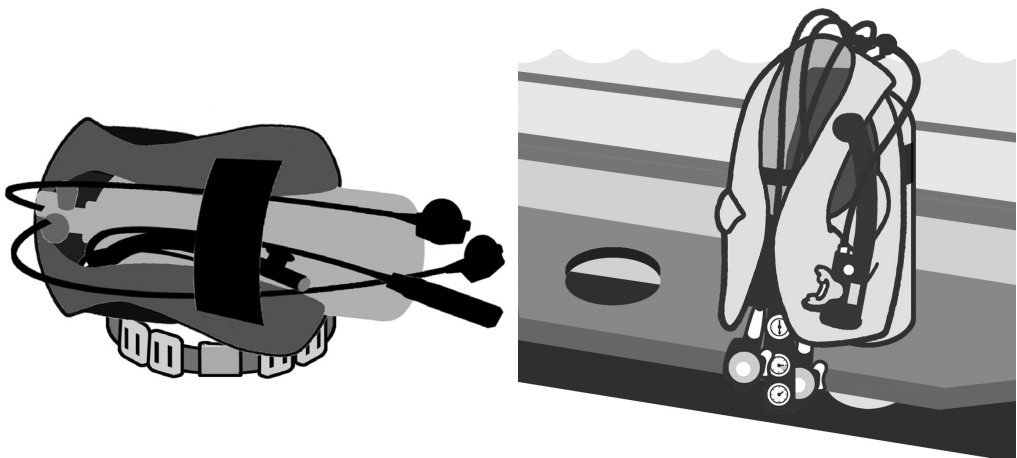
キャプテン、バディ、チームリーダーそしてサポートチームとは、エントリーとエキジットの手順や方法、水中での移動経路、潜水深度や時間、合図、各メンバーの役割、非常時の行動などを確認しておきましょう。



小型ボートは足下がせまく不安定なので、出航前に港内で器材をタンクに装着しましょう。

大型ボートでは出航後に沖合で器材をタンクに装着しましょう。

器材のセッティングが完了したら、タンクストレージにタンクを収納するか、タンクに衝撃を与えないように、BCとウエイトを利用してタンクを寝かせておきましょう。

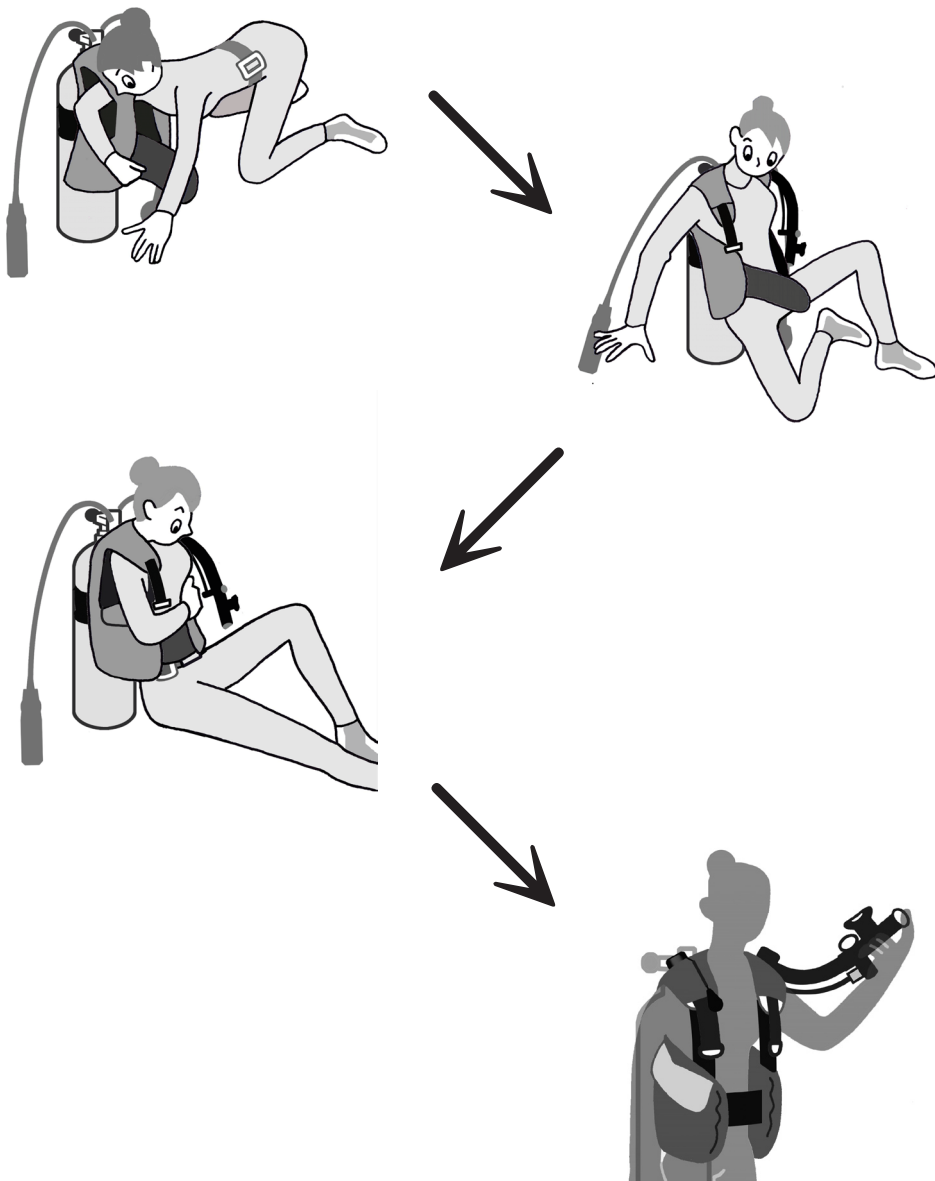


マスクやフィンなどはメッシュバッグ等でまとめ、足下を広くしましょう。

■エントリー準備

小型ボートは足下がせまく不安定なので、デッキにすわってタンクを装着します。

エントリー時にトラブルがおこった場合でも落ち着いて対処できるように、BCを少しだけ膨らませて、水面で浮力が確保できるようにします。

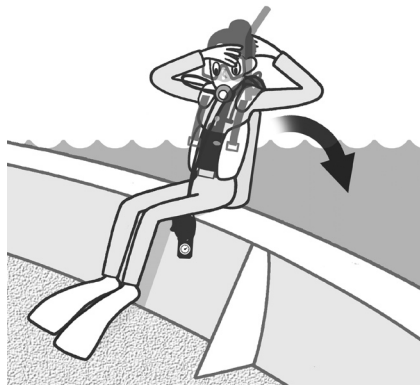


■エントリー

エントリーはチームリーダーの指示に従って行なってください。

足下が不安定な小型ボートの舷側からエントリーする時には、ジャイアントストライドエントリーが行えないので、バックロールエントリーを行います。

舷側に腰掛けたら、エントリー時にゲージやオクトパスレギュレーターが舷側に引っかからないように両足ではさむと良いでしょう。



ゲージは両足ではさむ

エントリー時には、マスクが顔からはずれないように、マスクのフレームとストラップをしっかりと押さええます。

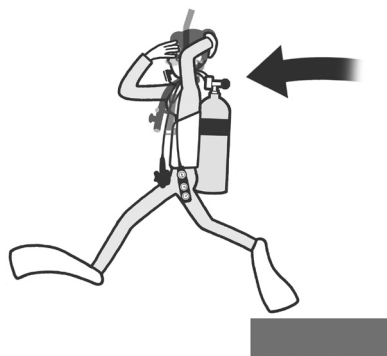
また、着水時の後頭部がバルブにあたらないように、しっかりとあごを引きます。



後方注意！！

水面に人や浮遊物がないことを確認してからエントリーしましょう。

足下が安定している大型ボートからエントリーする時には、ジャイアントストライドエントリーが一般的です。



スクーバユニットを水面で装着する場合は、ファーストステージからのホース類がからまないように、落ち着いて装着しましょう。

1. スクーバユニットが水面で中性浮力を保てるように、スノーケルをくわえてBCに適量の空気を入れます。
空気を入れすぎると装着しにくくなりますので注意しましょう。



2. ホース類がからまないように、ホース類をBCの外側へ出し、レギュレーターをくわえます。



3. 右腕をBCに通したら、右手でタンクの下部分を支えます。

4. 左腕をBCに通します。

5. バックルを締め、ホース類をホルダーに止めます。

6. BCに空気を入れ、浮力を確保します。



また、次の方法で装着することもできます。

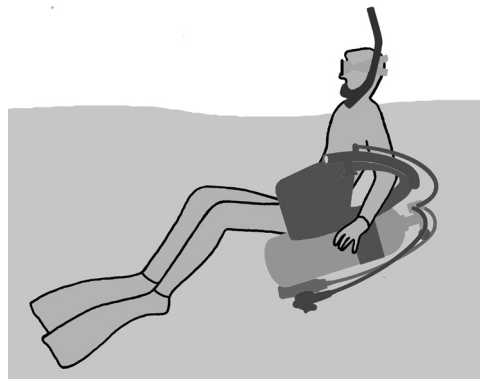
1. スクーバユニットが水面で浮力を保てるように、スノーケルをくわえてBCに適量の空気を入れます。
2. ホース類がからまないように、ホース類をBCの外側へ出します。



3. タンクの上に乗ります。この時に、水面が首の位置にくる程度にBCの空気量を調整します。水面が首の位置より下の場合には、体が不安定になるのでBCの排気が必要です。



4. 両方の手首をBCに通します。



5. バンザイをするようにして両腕を通します。



6. バックルを締め、ホース類をホルダーに止めます。



7. BC に空気を入れ、浮力を確保します。

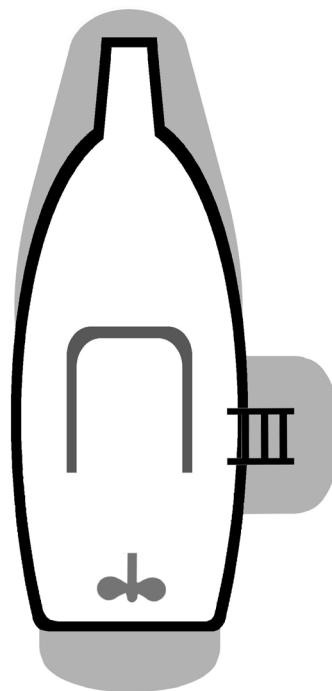
水中カメラなどは、エントリー時にはボートに残しておき、エントリー後にボートスタッフから受け取りましょう。

水中スクーターなどの重い器材は、落下によるアクシデントを防止するために、ギヤラインを利用して水中で受け取ります。



エントリーしたらエンジンが停止していても、念のためスクリューに近づかないようにしましょう。
スクリューに巻き込まれると、大きなアクシデントとなります。

また、揺れているボートからはすみやかに離れ、ボートにぶつからないようにしましょう。



注意エリア

■潜降

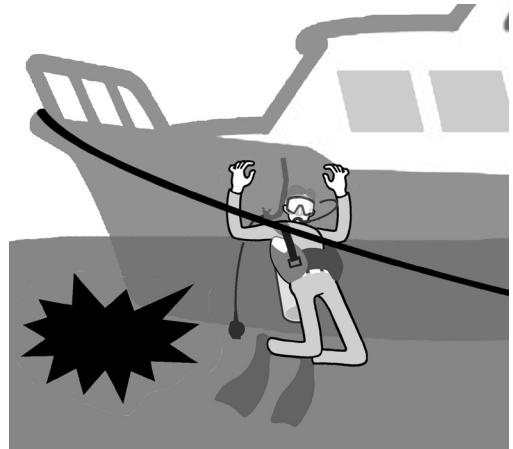
バディは水面でお互いに安全を確認した後、潜降ラインやアンカーラインを利用していっしょに潜降します。

潜降中はバディ同志お互いの様子を見ましょう。

潮流が速いときには、カレントラインやタグラインを利用して潜降ラインまで移動することもあります。

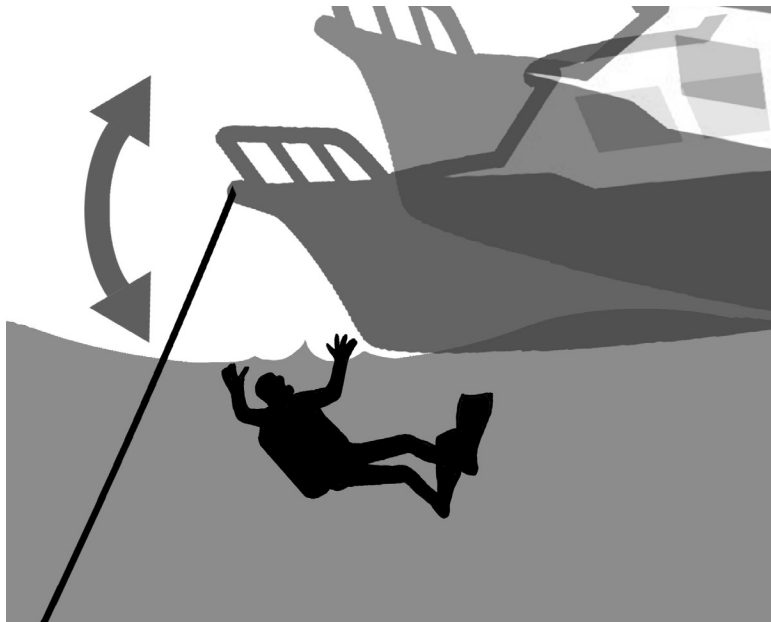
タグラインを利用して潜降ラインまで移動する場合には、タグラインとボートとの間に入らないようにしましょう。

波によってボートが揺れたときなど、タグラインとボートの間にはさまれると大きなアクシデントとなることがあります。十分に注意しましょう。



潜降ラインの代用としてアンカーラインを使用する場合には、水面でアンカーラインとボートとの間に入らないように注意しましょう。

おもては波によるボートの動揺が特に大きいので、ボートに接触すると大きなアクシデントとなります。



海底でアンカーがはずれた場合、アンカーラインの潮下にアンカーがはね上がります。海底付近ではアンカーラインの潮下にいないようにします。

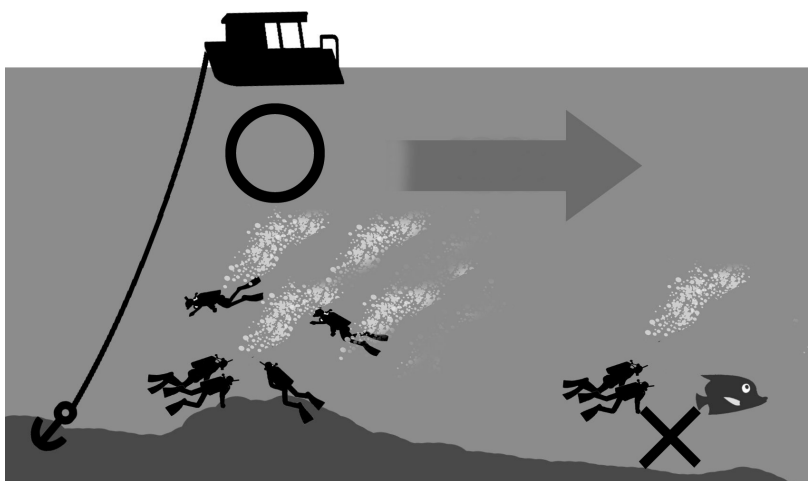


バディは海底でお互いに安全を確認した後、周囲の状況を確認します。

■水中での行動

潮流に逆らって移動すると、帰りは潮流を利用して戻れます。

潮流が速い場合には、ボートの潮下に離れないようにダイビングを楽しみましょう。



ボートの潮下へ移動しない。

■浮上

潜降ラインやアンカーラインに沿って浮上しましょう。

ボートダイビングはビーチエントリーに比べて潜水深度が深いため、減圧症には十分注意しましょう。

また、他の船舶の往来にも注意が必要です。
安全停止をしながら水面にも注意を払いましょう。



■エキジット

浮上したら、エンジンが停止していても、念のためスクリューに近づかないようにしましょう。スクリューに巻き込まれると、大きなアクシデントとなります。

カレントラインやタグラインを利用してエキジットの順番を待ちましょう。タグラインを利用してエキジットの順番を待つ場合には、タグラインとボートとの間に入らないようにしましょう。

波でボートが揺れると、タグラインとボートの間にはさまれ大きなアクシデントにつながりますので、十分注意しましょう。

ラダーからエキジットする際には、最初にウェイトをはずしボートスタッフに渡します。



次に、スクーバ器材を渡し、最後にフィンを渡します。



ラダーに手をかける際には、ラダーと船体との間に指をはさまないように注意しましょう。

ボート上がったら次の人のじゃまにならない場所に移動し、器材を整理しましょう。

使用済みのタンクは、ウエイト等をストッパーに利用すると、デッキ上で転がるのを防げます。

ラダーを使っている人が落下することもあるので、ラダーの下には入らないようにしましょう。



ドリフトダイビング

ドリフトダイビングで最も大切なことはグループやバディと離れないことです。

海面付近と海底付近では潮流の向きが異なる場合があるので、潜降や浮上時には特に注意が必要です。

■エントリー準備

潮流が速く、海底でグループが集合する場合、事前にBCを完全に排気しておきます。

インフレーターのアウラルボタンを押しながら、BCの空気を吸い込めば、ボート上でも完全にBCを排気できます。

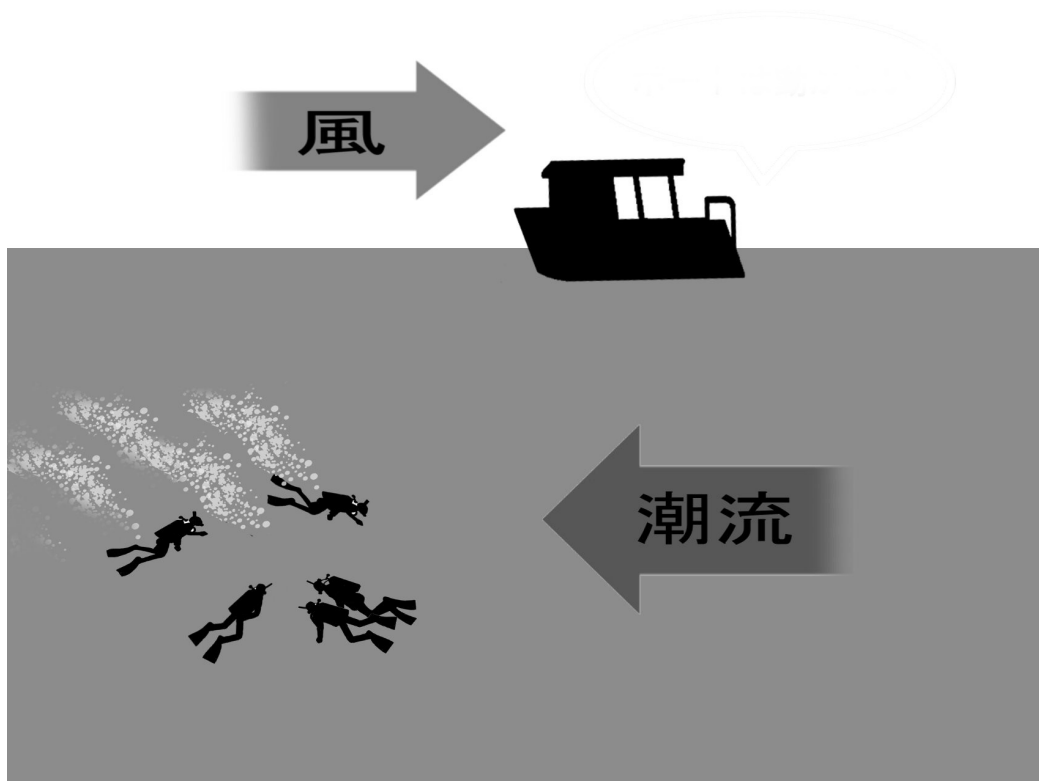


■エントリー

まず、ボートのエンジンが停止しているか、確実にスクリューが止まっているかをボートスタッフに確認しましょう。ボートのスクリューが動いている場合には、決してエントリーしてはいけません。

スクリューに巻き込まれると、大きなアクシデントにつながります。

ボートは、風・潮流の方向・強さにより、流される方向や速度が決まります。ダイバーは、海面での風の抵抗が小さいため、風の方向や強さよりも、潮流の方向と強さにより流される方向や速度が決まります。



ダイバーは風の影響を受けません。

したがって、ダイバーのエントリーの時間がわずかにずれると、水面でグループのメンバーがバラバラになってしまいます。

メンバーがバラバラにならないように、グループ全員が同時にエントリーします。

■潜降

水面で異常がないことを確認したら、グループ全員で同時に BC を排気します。

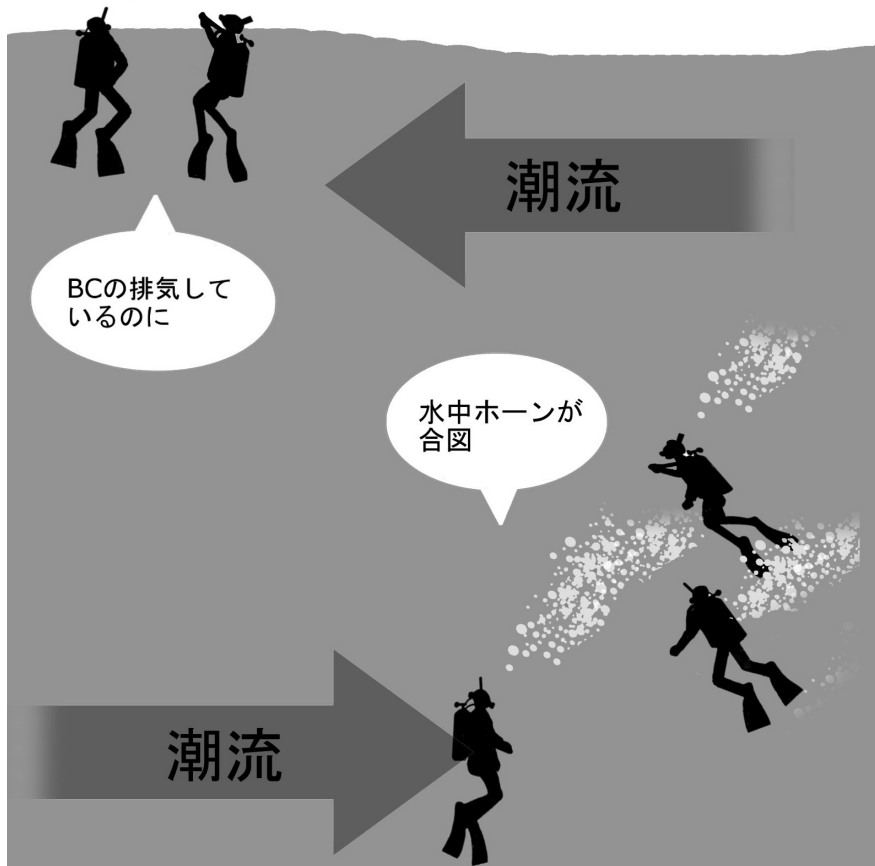
オーラルボタンによる排気では、BC の容量差によりグループが同時に潜降することができないので、排気の際にはパワーエグゾーストボタンを押すか、インフレーターホースを引っ張って、一気に空気をぬぎます。

バディと離れないように注意しながら、チームリーダーに続いて海底を目指します。

潮流は水深が異なると速さや方向が異なります。

耳抜きがうまくいかないなどの理由で、チームリーダーと異なる水深にいたり、チームリーダーとはぐれてしまいます。

このような場合には、ホーンを利用してチームリーダーに異常を知らせます。

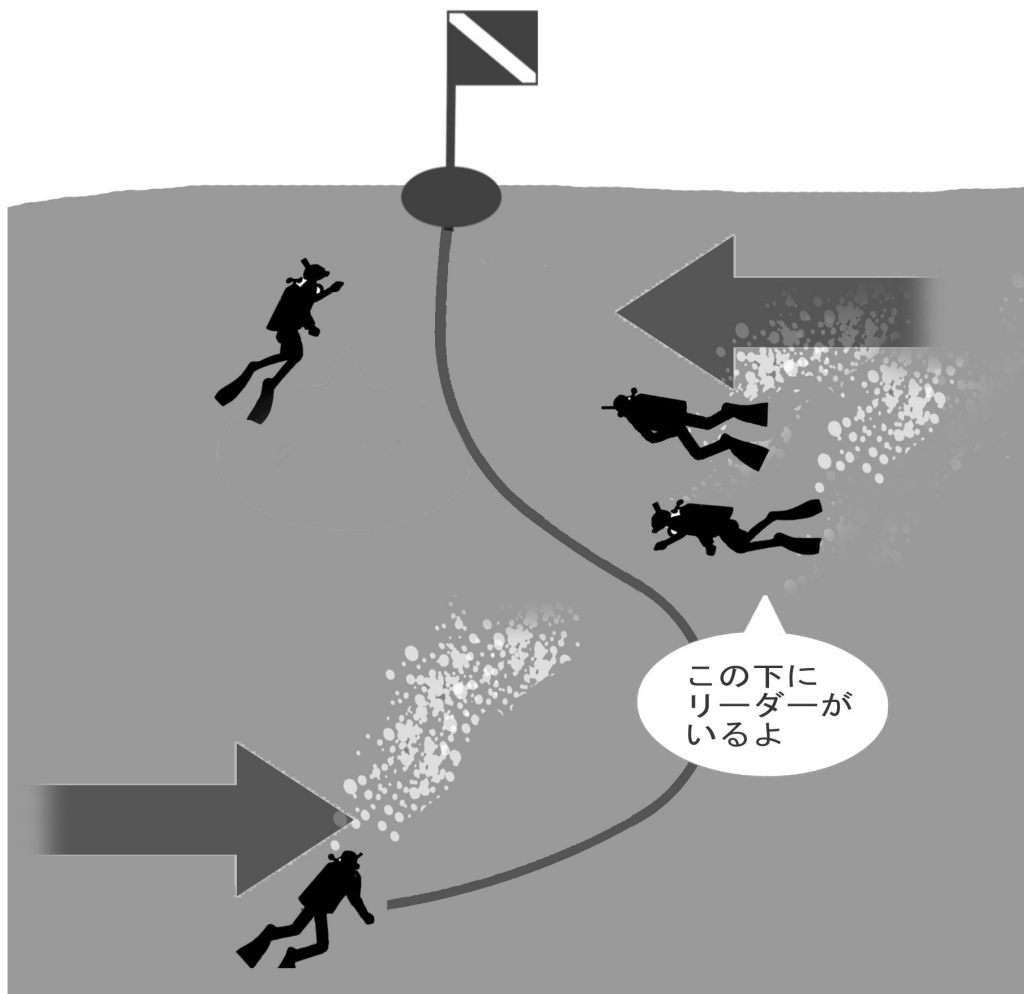


チームリーダーが水面フロートを使用している場合にはロープに沿って潜降し
ます。

ロープにはさわらずに、目印として使用します。

ロープにさわるとチームリーダーが持つロープが強く引っ張られて、チームリー
ダーが海底から浮き上がってしまい潜降ができなくなります。

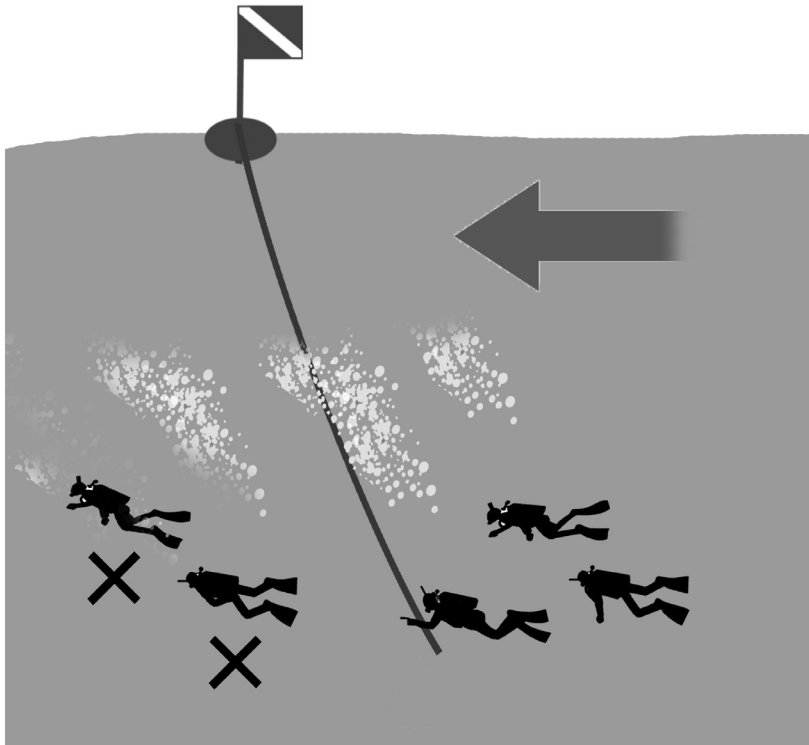
ロープの延長上にチームリーダーがいますので、耳抜きがうまくいかないなどの
理由でチームリーダーと異なる水深にいても、チームリーダーとはぐれる心配は
ありません。リラックスして潜降しましょう。



■水中での行動

水中では常にチームリーダーの潮上に位置するようにします。

チームリーダーの潮下に位置すると、進行方向に背を向けなければチームリーダーのハンドシグナルが確認しにくく、ダイビングを安全に楽しむことができません。



速い潮流の中で止まるときは、生物にダメージを与えないように注意して海底の岩などにつかまりましょう。

万一、バディやチームリーダーを見失った場合には、水中でバディやチームリーダーを捜さずに浮上します。

ボートは、グループのメンバーがバラバラになったことに気付かないので、浮上中のダイバーの位置がわかりません。

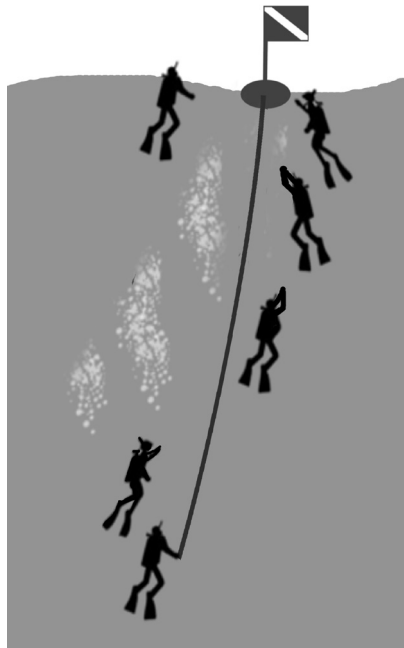
浮上時にはボートの接近に十分注意してください。

■浮上

チームリーダーが水面フロートを使用している場合にはロープに沿って浮上します。

チームリーダーはロープを巻き取りながら最後に浮上します。

ロープにさわるとチームリーダーが持つロープが強く引っ張られて、チームリーダーがロープを巻き取ることができなくなります。ロープにはさわらずに、目印として使用します。



水面についたら、グループのメンバーや水面フロートから離れずに、グループ全員が水面に到着するのを待ちます。

潮流が速く安全停止ができない場合には、頭上にボートが接近していないかよく確認して浮上しましょう。

■エキジット

スクリューが動いているボートには近づいてはいけません。

ボートのスタッフからスクリューが停止していることを確認してからボートに接近します。

カレントラインがある場合には、これにつかまりエキジットの順番を待ちます。

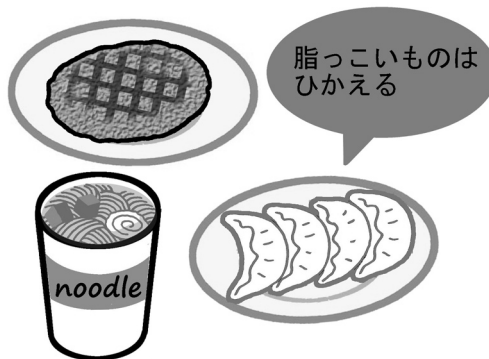
カレントラインがない場合には、グループ全員が離れないようにエキジットの順番を待ちます。



■船酔い対策

●食事

乗船時は空腹や満腹を避け、乗船の数時間前に脂分の少ない食事を適度にとりましょう。



●視線

細かい作業や器材のセッティングはできるだけ出港前に済ませ、ボートの上では陸地や遠くの水平線を見ましょう。



●乗船位置

おもて側よりとも側のが揺れが少ないので、とも側に乗船しましょう。
ボートの排気ガスを吸わない場所に乗船しましょう。
大型ボートの場合にはキャビン内ではなく、風が当たるデッキに乗船しましょう。

●嘔吐

ボート走行中に吐き気をもよおしたら船尾側等の風下側に行きましょう。
海に落ちないように十分気をつけましょう。

- 発行 スターズ本部
 東京都文京区本郷2丁目26番14号
 電話 03-3818-6028
- 初版発行 2011年11月

※本紙掲載記事、写真、イラストの無断転載をお断りいたします。